

## 信州人



戦後日本の論壇は、左派の誤った認識が主流だった。歴史を振り返ってみれば、すぐ分かることです。

吉田茂元首相がサンフランシスコ講和条約を調印した際、左派は全面講和だと主張した。だが、吉田氏は、単独講和に踏み切った。その決断は、その後の日本の繁栄を見れば、どちらが正しかったのか歴然としている。

日米安保条約の改定時にも左派は、軍国主義になると反対した。日米関係を従属から対等な関係にしようという岸信介元首相の取り組みは、その後、この条約が日本の抑止力にどれだけ効果をもたらしているか。

今でもそうした風潮がある。

「『保守の極言』にこそ真実アリ」を上梓 吉沢国雄さん(74)

だからこそ、左に寄った認識を改めるべく、国の形が本来、どうあるべきか、きちんと示す必要があると考えた。書籍のタイトルにあるように「保守の極言」が求められているのです。

ことを強調したかった。「平和を望むなら、9条を守るべきだ」という意見は間違っていない。中国や北朝鮮の無法な振る舞いを目の当たりにするとき、国民の生命・財産を守るには、9条がネックになっている。やはり自衛隊をきちんと憲法

に明記する必要がある。安倍晋三首相がやろうとしている「9条の2」を新設する「加憲」案は、そのための第一歩だ。個人あつての国家ではなく、国家あつての個人なのです。左派は逆の発想をしている。国家が嫌いだから、国益に反する意

# 憲法9条が国民守るネットクニ

見を口にし、それが正義だと思っっている。

長野もそうした傾向が強い。どうすればいいのか。地道な取り組みだが、有志と月1回のペーイスで学習会を開き、憲法問題や保守の定義などについて、見識を深めている。こうしたことの積み重ねが大切だ。

野山に入って植物の観察をするのが趣味ですね。斑尾山など県内の山々はもとより、他県にも仲間と登ります。心が洗われる。

(松本浩史)

